

河川環境を守るために



佐原河川敷緑地での清掃活動

市内の環境保全活動団体である、かとり市民環境ネットワークを中心とするボランティアによる佐原地区の利根川河川敷の清掃活動が、3月18日と4月22日に行われました。

小見川地区の黒部川から始まったこの清掃活動は、代表者の一人である宮部義夫さんが佐原歩こう会での活動中に、利根川河川敷で大量のごみを発見したことがきっかけで、佐原地区でも実施するようになりました。今回で5回目の開催となり、佐原歩こう会を中心に2日間で延べ76人が、利根川下流河川事務所の協力のもと、ピン、カン、ビニールのほか、ポリ容器などの漂着物を大量に回収しました。

祈りは時を越えて

五月人形といえば、屋外に飾る「外飾り」として鯉のぼりが定番ですが、家の中に飾る「内飾り」には鎧または兜飾りがあります。5月17日まで佐原地区の商家で展示されている五月人形は、男の子の誕生を祝うとともに、無事な成長を祈るための内飾りです。中には見たこともない巨大な鯉のぼりなど特例もありますが、訪れた観光客は商家を巡り、情緒ある町並みの中に飾られた人形の前で足を止め、興味深そうに眺めてはカメラを向けるなど、散策を楽しんでいました。



兜飾り、鎧飾りに見入る（東薫酒造(株)にて）

まちかど通信

楽しくホットなまちの話題をご紹介します

武神、新緑を楽しむ



春風の中を進みます

4月15日、香取神宮で神幸祭が行われました。年に一度、香取神宮の経津主神（武道の神様）が里に降りられる大祭で、装束を身にまとった氏子が約200人の行列をなしてお供します。一行は、木々が青々と葉をつけた参道を練り歩いたのち、香取神宮の大駐車場で駐輦祭を行いました。駐輦祭では氏子地区の下小野の神楽などが奉納され、訪れた見物客は見事な獅子舞に見入っていました。

ホームステイで異文化体験



ブルーンバール・ステイト校の生徒との記念撮影

3月12日から20日まで、オーストラリアのプリズベン市にあるブルーンバール・ステイト・スクールを、市内中学校の代表生徒34人が訪問しました。生徒たちは、ブルーンバール・ステイト・スクールとの交流やホームステイを通じて、異文化への理解を深め、また、日本を紹介する中で自国の文化を再認識するなど、すばらしい機会を得ました。今後は、参加者一人一人がこの経験を各学校に持ち帰り、その成果を広めるとともに、この経験がそれぞれの人生の大きな糧となることでしょう。

